



活力ある秋田 Vol. 72

情報発信で 活気ある秋田を!

[秋田市観光クチコミ大使]

株式会社JTB東北仙台支店 支店長 吾妻秀俊氏

2014年の2月に2年間在任した秋田から仙台に転勤となり、もう1年3か月が経とうとしています。その間、「秋田市観光クチコミ大使」として任命いただき、たくさん頂戴した「秋田市観光クチコミ大使」の名刺を配ったり、マスコミの取材の際に自慢したりしています。

秋田と縁ができたのは、1982年に入社し、最初の赴任地が秋田支店だったことからです。その後、5年と少しを秋田で過ごさせていただき、秋田の人の魅力、食の魅力、文化の魅力、自然の魅力を大いに体験させていただき、秋田が大好きになりました。人生の伴侶とも秋田支店勤務時に会うというおまけつきで、秋田キャッスルホテルにて挙式しました。私にとって秋田は、まさに、第二のふるさととなりました。

新入りで過ごした秋田を去ってから、25年振りの秋田勤務の発令を受けたのが、2012年の2月のことです。アパートに引っ越した当初、その年は厳冬で1日半くらい水道管が凍結し、家内の実家にお世話になり、雪深い秋田に戻ってきたんだという思いを強くしました。年に何度か、家内の実家のある將軍野には、定期的に行っておりましたが、なかなか市内中心部に出る機会がありませんでした。久しぶりに見た秋田市中心市街は、当時と比べて、ちょっと寂れた印象を受けました。魁新報社やダイエーもなくなっており、広小路や川反境界も活気がないように思われました。もう一度、往年の活気を取り戻せないのかと、漠然とではありますが感じたことを今も思い出します。

2012年からの2年間の在任期間中は、観光とかかわっていく仕事であることから、いろいろな会

議やイベントに参加させていただく機会を頂きました。秋田を良くしたい、秋田に来てもらいたい、と真剣に考えながら活動している地元の多くの皆様と出会えたことは、私にとって一つの感動でもあり、また、よい財産になったのではないかと考えています。そこで感じたのは、秋田の魅力を知ってもらうことの難しさ、情報発信の難しさです。

こんなにいい素材がいっぱいある秋田です。いろいろな取り組みがなされていると思いますが、点としての秋田市だけでなく、面とし



仙台支店のパンフレットコーナーでの秋田県全体、その先の東北を、全国に、そして、世界へどう発信していけば魅力が伝わるのかを常に考えていかなければならないと強く感じています。秋田の魅力に自信を持って、情報発信に力を入れていただければと思います。

今後も、クチコミ大使として秋田を大いに自慢していきたいと思っています。また、観光に携わっている立場として、多くの人が秋田を訪れ、その魅力に触れられるよう、微力ながら頑張っていきたいと思っています。

■略歴

- 1960年 宮城県生まれ
- 1982年 東北大学法学部卒業
- 1982年 日本交通公社(現JTB)入社。秋田支店勤務
- 2012年2月～2014年1月
JTB東北法人営業秋田支店長
- 2014年2月～ 現職